

印刷にこだわらず「あったらええな」を形に

明新社

今年創業140周年を迎える明新社。歴史ある印刷会社でありながら、絶えず新たなことにチャレンジしている。奈良県のマスコットキャラクター「せんとくん」など奈良ゆかりのキャラクターグッズの製造・販売に始まり、ご当地ヒーロー「YAMATO超人ナライガー」の発案、関西初の日本ティーコンシェルジュ協会認定校の開校など、本業の印刷業以外の事業も積極的に手がける。

同社は「印刷もできる広告代理店」というのにふさわしい企画力が魅力だ。

楽しいこと考えよう

せんとくんの使用許可を初めて取得したほか、市民団体が作った「まんとかん」、YAMATO超人ナライガーなど、奈良ゆかりのキャラクターグッズを販売する奈良に特化した土産物店「絵図屋」（奈良市橋本町）も人気を集めている。

この絵図屋は、市内の商店街「もちいどのセンター街」に立地していた旧社屋を利用した。乾昌弘社長が「商店街の一角に（旧社屋の）シャッターが下りているのはよくない」と土産物

屋に衣替えした。

さらに地元奈良を盛り上げようと、さまざまな趣向を凝らしている。

沖縄県の「琉神マブヤー」や新潟県の「超群21ガッター」などを参考にYAMATO超人ナライガーを発案。県内のイベントでも子供たちの人気を呼んでいる。

また、ハーブティーや紅茶、日本茶、中国茶など、世界各国の多種多様なお茶を使った美容健康法を指導する「ティーコンシェルジュ」の資格取得を社員に勧め、その社員が認定講師の資格を取得。関西初の認定校を開校するなど、印刷業にこだわらず、さまざまな事業に社員一同で取り組んでいる。

乾社長は「印刷物に限らず、『こんなあったらええな』と思える楽しいことを考えよう」と社員を引っ張る。

武器持つため多角化

1874年に「奈良明新社」として創業した同社は、印刷業のほかに事務用品販売なども手がけていた。1985年に、父の嘉平さんが印刷業に集中するため、社名を「明新印刷」に改めた。



鮮やかな色の再現を可能にした「印刷機」＝奈良市

職人の質で差別化を図っていたものの、印刷のデジタル化が進んで品質の差別化が難しくなり、「紙だけでは先細りする。何か武器を持たないと」と、創業130年にあたる2004年、経営の多角化に乗り出し、社名も現在の「明新社」に改めた。

「アイデアは何らかの形で印刷につながる」と社員を鼓舞し、乾社長自らが会社を引っ張る。

「自分が楽しくないと楽しんでもらえない。奈良が楽しくなかったらいい」と、夏の奈良を彩

る「なら燈花会」などの恒例イベントでも中心的な役割を果たしてきた。

社長の背中を見た社員らもアイデアを出すように成長したといい、「140周年を前に、やっと地に足がついてきた」と話す。

本業の印刷業においても、従来のカラー4色印刷に光の3原色を加えた7色印刷を可能にし

た印刷機を導入。鮮やかな色の再現が可能になり、色の深みが増すなど、印刷の表現力を飛躍的に向上させた。

また、さまざまな事業にチャレンジして培った企画力を踏まえ、「御用聞きのように言われるままの印刷から、提案型の印刷に進化することができた」と胸を張る。（業師寺大輔）

■会社概要

- ▷本社＝奈良市南京終町3-464
- ▷設立＝1935年
- ▷資本金＝3000万円

▷従業員数＝47人

- ▷事業内容＝パンフレットなどの印刷物や自社宣伝用のノベルティー商品の製造・販売など

奈良発



諦めなければできないことはない

—140周年を迎えられた秘訣は

「一つは印刷業が地域密着型の業界で、地域の皆さまにかわいがっていただいたこと。もう一つは、技術が日進月歩で進化する中、時代に合わせて会社を変えてきたことだと思う。もともとは『奈良明新社』という社名だったが、大きなウエートを占めていた印刷業に専念するために社名を『明新印刷』に変えた。当時はそれでよかったが、私が社長になるまでの間にインターネットや電子化などで紙媒体は減る傾向にあった。このまま紙にインクを載せただけでは、先細りするは避けられないと感じ、印刷を核としながらも新しい領域に拡充していこうとした」

—変化するなかで一番大変だったことは

「大変だったのは、社員だったと思う。社員は印刷会社の営業マンだから、『新しいことって何をすればいいの』という戸惑いがず



乾 昌弘社長

いぬい・まさひろ 同志社大卒。1986年3月、父・乾嘉平氏が社長を務める印刷会社「明新印刷」に入社、2002年6月、社長に就任。52歳。奈良県出身。

いぶんあった。社名を変更して、頭の中では分かったつもりでいても、印刷会社から脱皮できなかった時期が数年間は続いていた。そんな中で、社長の自分が新しい取り組みをやらないと社員もできないと思ったので、いろいろな取り組みを始めた」

—社員に訴えてきたことは

「一見、印刷と関係ないことをやっているように見えても、何らかの形で印刷につながる、ということ。ナライガーも『単純に奈良が楽しくなかったらいいな』という

発想で始めたが、今では会社の一つの武器になっている。ナライガーが緑で、それまで取引のなかった会社とつながったこともある」

—原動力は何か

「会社経営にかかわらず、成功した人の話で共通するのは『諦めずにやった』ということ。とりあえずやってみようという性格で、これまでの経験から『諦めなければ、できないことはない』と実感している。できたときの喜びは何ことにも代えがたい。社員にもそういう喜びを与えてあげたい」

イチ押し!

「ポイ捨て許さぬ」ご当地ヒーロー



地元ヒーローのYAMATO超人ナライガー＝奈良市

明新社が事業展開の「武器」として開発したのが、奈良のご当地ヒーロー「YAMATO超人ナライガー」だ。

頭の2本の角「ハイパーホーン」は国の天然記念物「奈良のシカ」の角を、白いボディは神の使いの白鹿を、鎧の模様は正倉院文様を、ベルトのバックルは吉野の桜をイメージした。

自然豊かな奈良の環境を汚染し地球征服を企む「汚〜セン帝国」の野望を阻止するため、1400年の時空を越えてやってきた絶対正義のエコファイターという設定になっている。

必殺技は鹿せんべいを模した円形の武器「鹿せんクラッシュ」など。決めゼリフは「ポイ捨てする奴〜許さね〜!」。

関連商品はキーホルダーやカレー、ドロップなど約20種類。撮影会などのイベントも開催している。問い合わせは明新社イベント事業部（☎0742-63-0661）。